

榮光

766号

2026年5・6月

日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<https://den-church.jp/>

通じ合う

使徒言行録 二章五く一三節

牧師 山北 宣久

人間らしく生きるとは具体的にはどういう生き方なのだろう。いろんなことが言えると思うが、こう表現することは可能だろう。

「複雑な人間関係を適切に対処しながら、他者に対する思いやりを失わずに生きる。」社会を知れば知るほど、いろいろな生き方様々な考え方をしているのだなあと感ぜられる。それゆえ種々の葛藤を抱くこととなる。神は個性を与えられた。それゆえ人には違いがある。従って社会人として生きるということは、多種多様な人の中で共に生きる逞しさを身につけていかねばならない。

米国にはMake a difference day というのがあるそうだ。「全国ボランティアの日」として違う人と出会い、違いを違いとしながら心を共に合わせていく、ステキなことだ。ペンテコステ、目に見えない神の愛が注がれた結果、キリストの教会が誕生することと

なった。それは違う人々を通じ合うことになったことを憶える日でもある。

教団の聖書日課たるこの箇所では、「一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した」という情景が語られている。(二章四節)

「ほかの国々の言葉で話した。」これは突然バイリンガルになったということではない。言葉も心も通じ合わない人々が、通じ合うようになったということだ。

九節以下には沢山のカタカナが出てくる。ここに記されている地名、民族は長い間、互いに憎しみをぶつけ合い、戦いを交えてきた人々であった。

そして強大なローマ帝国によって不当な圧迫を受けている民族が殆どであった。ともかく互いに敵視し、軽蔑し合っている人々と国々がお互いに通じ合う現実がもたら

されたというのだ。

それは、主イエスの十字架にこめられた罪の赦しにみられる神の愛、そして主の復活にこめられた、私たちの死からの救いに見られる神の偉大な業である。

共に罪赦されたお互い、共に死を超えた交わりに導かれ行くお互い、このことを信じるゆえに心通じ合う者とされていく、これが国境、民族、政治を越えてすべての人々に語られていく普遍的真理、ここに結集することが決定的な立ち位置となる。

使徒言行録二章は創世記一章バベルの塔の物語と対比して語られる。

「この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱(ババル)させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。」(創世記一章九節)

上へ上へと向かい神のようになるのだと傲慢になり、結果として通じ合わなくなった世界が、もう一度罪赦され、死をも越えていく交わりを与えられ、通じ合う者とされていく、このことが起こったのがペンテコステなのだ。人間は各々に変わっていいのだ。いかなれば他人と異なる権利を人は持っているのだ。その権利を十分認め合ったうえで共に生かされて生きる、それが人間尊重である。

世界はどうしても一つになれないということとで悩んでいる。そんな中、Unity of Variety(多様性における一致)と神にあって心低く、しかし大胆に信じ、その実を生かし合っていること、これが尊い生き方となるのだ。

(二〇二六年五月二四日 夕の公同礼拝)